

# 平成29年度 租税教育に関する研究発表要項

岩沼市立岩沼小学校

教諭 三澤 恵

## 1 研究主題

税の意義や役割を理解し、政治参加に対する意欲を高める指導の工夫  
～税金の使い道について考えさせる活動を通して～

## 2 主題設定の理由

小学6年生は「税」という言葉は知っていても税に関する知識がほとんどなく、日本国憲法についての学習もまだである。税金の種類はもちろん、納税が国民の義務になっていることも知らない児童がほとんどである。身近なのは消費税であるが、何に使われているのか、なぜ支払わなければならないのかについては、考えたこともないようである。働いて税金を納めているわけでもない小学生が、税に対する知識がほぼないことは当然のことであると考えた。

そこで、税に関する知識を学ぶだけではなく、自分なりの理由をもち、国民から集めた税金の使い道を考えさせたり、自分とは違った考えをもつ友達の見解を聞かせたりすることによって、税の意義や役割についての理解を深めさせたいと考えた。また、自分たちの考えた大事だと思う税金の使い道と本当の国家予算を比較させることで、現代社会が抱える問題や政治参加の大切さにも目を向けさせたい。それが今後の社会科の学習につながっていくのではないかと考え、本単元を設定した。

## 3 研究の目標

税の意義や役割を理解させるとともに、大切な税金をどのように使うのかを考えることの重要性に気付かせ、政治参加の意欲を高める指導の在り方を探る。

## 4 研究の方法

- (1) 税金に関する実態調査を行う。
- (2) 租税教室を受け、税に関する基本的な知識を学ばせる。
- (3) 租税教室で学習した税金の使われ方を再度確認し、最も多くお金を掛けるべき使い道は何か、自分なりの理由とともに考えさせる。
- (4) (3) で考えたことをもとに、友達と意見交流をさせる。同じ意見を持つ友達とグループを作り、他の意見を持つ友達を説得する意見を考えさせ、発表させる。
- (5) 今年度の本当の国の予算を提示して、平成4年度と今年度の予算を比較させ、社会保障の割合が増えている理由を考えさせる。また、国の予算を決めているのは誰かを考えさせることで、国民の政治参加（選挙）が大切な税金の使い道を決めるために重要であることを理解させる。
- (6) 税に関する学習について振り返らせ、意識の変容をみる。

## 5 研究の計画

10月	事前実態調査
	租税教室 講師 仙台南税務署 高橋 竜之氏
	実践授業
11月	実践授業
	研究のまとめ・発表

## 6 研究の概要

(1) 児童の実態 (平成29年度6年3組 男子17名 女子20名 計37名)

1 税金にはどんな種類があるか知っていますか。知っている税の種類を書きましょう。

( はい 23名                      いいえ 14名 )

- ・消費税 (18)
- ・納税 (7)
- ・関税 (2)
- ・自動車税 (2)
- ・土地税 (2)
- ・所得税 (1)
- ・住民税 (1)
- ・印税 (1)
- ・市民税 (1)
- ・固定資産税 (1)

2 税金は、どのようなことに使われていると思いますか。

- ・国のため (10)
- ・公務員の給料 (3)
- ・教科書 (3)
- ・道路工事 (3)
- ・政治 (2)
- ・国づくり (2)
- ・県で何かを作る (2)
- ・その他 (13)
- ・わからない (3)

3 税金は、誰が払っていると思いますか。

- ・親や大人 (12)
- ・自分 (9)
- ・みんな (6)
- ・国民 (4)
- ・消費者 (3)
- ・全世界の人 (2)
- ・その他 (5)
- ・わからない (1)

4 税金は必要だと思いますか。(そう思う理由)

( はい 12名                      どちらとも言えない 16名                      不要 8名)

### 【はいの理由】

- ・日本をよりよくするためだから (2)
- ・必要じゃないなら集めないから (1)
- ・先生の給料が払えなくなるから (1)
- ・教科書がもらえなくなるから (1)
- ・国が成り立たないから (1)
- ・何かができるならした方がいいから (1)
- ・日本の借金を返すため (1)
- ・いいことに使われているから (1)

### 【どちらとも言えない・不要の理由】

- ・何に使ってるか知らないから (6)
- ・無駄に使われている可能性もあるから (4)
- ・お金の無駄遣いだから (2)
- ・無駄に使う人(国会議員)がいるから (1)
- ・8円が面倒くさいから (1)
- ・払わされているから (1)
- ・自分の意志ではないから (1)
- ・なくても生きていけるから (1)

## 【考察】

租税教室の前に行った実態調査のため、予備知識がほとんどない状態の児童の実態がよく分かる結果となった。「関税」や「納税」という言葉は、社会科で明治時代の学習をしていたことにより出てきた言葉だと考えられる。つまり、児童が日常生活において税について考えたり知ったりする機会がないということが分かった。税金の必要性を感じられない児童が多いことも、税金についてよく知らないことが理由だと考えられる。

以上のことから、租税教室を通して「税金の必要性」を感じさせるとともに、何に使うべきかを自分なりに考えさせ、意見を交流させていくことで、税金に対する興味・関心を高めることができると考えた。また、自分たちの納めた税金がどのように使われるかにも目を配っていくことが重要である。そのためには、積極的に政治参加することが大事だという視点にも気付かせたい。

## (2) 実践の概要

### 【第1時】 租税教室（平成29年10月24日）

仙台南税務署の方々に来ていただき、基礎的な税金の役割について詳しく教えていただいた。また、DVD「マリンとヤマトの不思議な日曜日」の視聴により、税金がない世界をイメージすることで、税金の必要性を感じることができた。

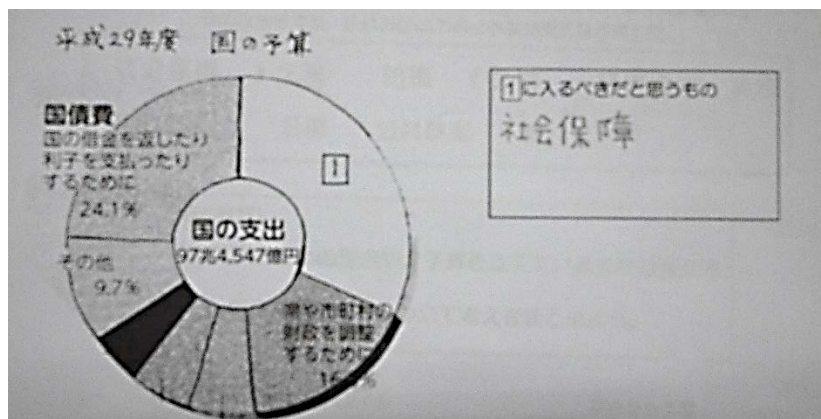
### 【第2時】 税金の学習 第2時

〈学習課題〉集められた税金は、どんなことに、どれくらい使われているのかを考えよう。

租税教室をもとにして、税金がどんなことに使われていたかを再度全体で確認し、出てきた意見をもとに以下の5つに分類した。

- ①社会保障（医療・介護など）
- ②公共事業（道路・橋・公民館など）
- ③文化・教育（教育・科学技術の発展のため）
- ④防衛（自衛隊・国防など）
- ⑤経済協力（発展途上国の援助）

平成29年度の国の予算（私たちの暮らしと税：中学校用）の円グラフを提示し、最も多く割り当てべきだと考えるものは①～⑤のどれだと思うか、理由とともに考えさせた。



この下に、理由を書かせる欄を作り、自分がなぜそれを選んだのか、友達に分かりやすく話すことができるようにした。

「防衛」を選んだ多くの児童が北朝鮮によるミサイルのことを理由に挙げていた。

### 【第3時】 税金の学習 第3時

〈学習課題〉「最も多く使われるべきだ」と思った税金の使い道について話し合い、最終予算案を立てよう。

第2時で考えたことをもとにして、友達と考えの交流をさせた。同じ意見をもつ児童同士をグループにし、グループごとに「何に最も多くの税金を使うべきか」理由を挙げて発表させた。この際、別の意見をもつグループの友達を説得するつもりで発表できるように準備させ、発表後に最終的な自分の考えを再度まとめさせた。



- ・話し合いの様子（左上写真）
- ・発表の様子（上写真）
- ・発表を聞く児童の様子（左写真）

①～⑤は、どれも必要なことなので、他と比較して「なぜそれが最も大事なのか」を発表することができたグループは説得力があった。

税金に関するだけでなく、根拠を明確にして話すことの大切さを改めて感じるためのよい機会にもなった。

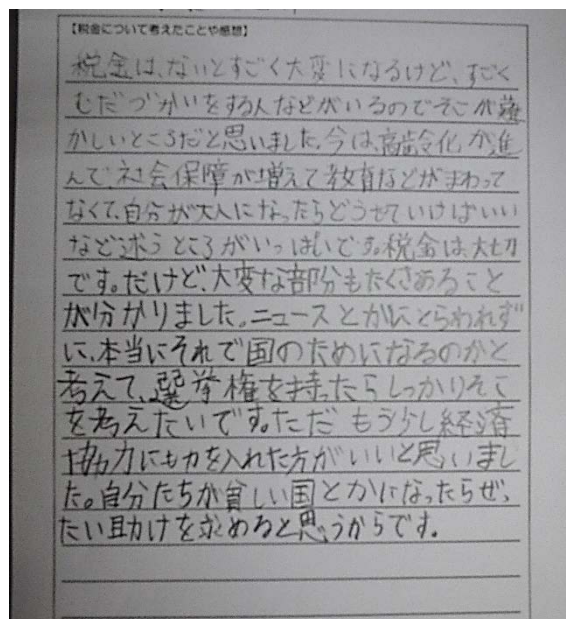
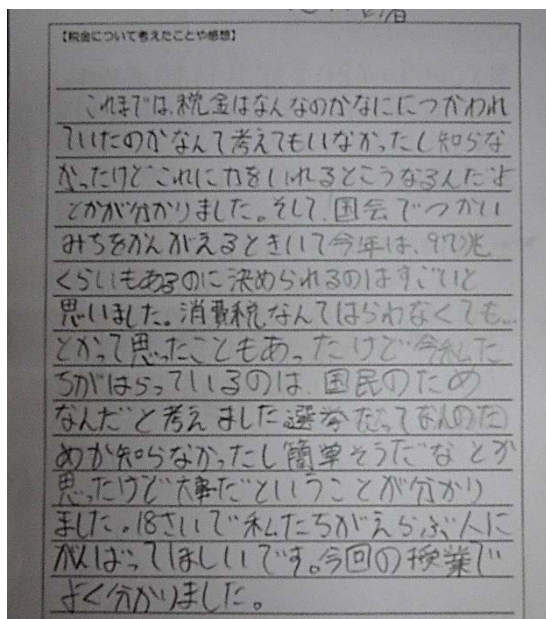
#### 【発表を聞いて考えたこと】

- ・経済協力は一番にするまでもないと思った。理由は、自分の国がまだかんぺきではないというのに、なぜそっちを優先するのかが分からないから。
- ・税金をかけている他のことを、防衛（自分が一番だと考えていること）と比べてみて、これは確かに必要だなとか（これは後からすればいいのでは？）とか（これの方がいいのでは？）や（防衛がないとこれは・・・）など、いろいろ考えたけど、やっぱり防衛かなと思いました。
- ・経済協力の話で、自分のことに置きかえて話をしているのは、すごく説得力があると思いました。
- ・いろいろな税金の使い方にいろいろな理由があることが分かり、その中でその使い方の長所と短所を見つけられるなと思いました。

【第4時】

〈学習課題〉国の予算の変化の理由や、予算を立てているのは誰かを考え、税金や政治参加について考えをまとめよう。

第3時の最後に、各自が考えた「最も多く税金を使うべき使い道」の結果を提示し、今年度の国の予算と比べさせた。その後、平成4年度の国の予算と比べると、社会保障費が増大していることに気付かせ、理由を考えさせた。医療と介護というキーワードから「高齢化」に気付くことができた。同時に、今後の国の予算における社会保障費の割合が増えていくことが予想されることにも気が付いた。そうすると、児童が他に大事だと考えたものの割合は減らざるを得ないことに目を向けさせ、自分たちの考えが予算に反映されるためにはどうすればいいのかを考えるために、誰が予算を決めているのかを考えさせた。歴史の学習などから、「国会で話し合って決める」ということにたどり着くことができたので、議員を選ぶための選挙が国民にとっての政治参加であることを確認した。税金を納めることも大事だが、それがどのように使われていくのかを、納税者として意識することや、選挙で自分の考えの代弁者を選ぶことも大切であることを全体で確認し、これまでの税金の学習をすべて振り返って考えたことや感想をまとめさせた。



【税金について考えたことや感想】

- 税金の使い道というのは、私たちには全然決める権利なんてないと思っていたけれど、本当は簡単に言えば、国民が決めているのだと思うと、政治参加は大切だと思った。
- これまで、税金ってなんであるんだろうと思ったけど、身近なところでぼく達を支えてくれてるんだと勉強になりました。学校に行っているのも、支えてくれている人々がいるので感謝しています。
- ぼくは、18才になったら選挙に行こうと思いましたが。自分の意見が通らないまま、お金を取られるのはもったいないから、自分の意見を通して税金を使った方がいいと思います。
- 税金の使い道はこのようになっていて、こういう時に使われているということを知り、「税金はこんなに日常と関係していて、こんなにも大切なものなのか」と感じた。大人になったら、選挙にも参加しようと思った。

## 7 研究の成果と課題

### 【成果】

- ・租税教室では、税金の必要性を十分に感じさせることができた。
- ・税の意義や役割を理解させるために、自分なりに「最も多く税金を使うべき使い道」を各自で考えさせ、理由を挙げて話し合わせたり、発表させたりしたことにより、自分の身近な課題として税を捉え、意欲的に学習に取り組む姿が見られた。
- ・税の必要性だけでなく、納税や政治参加への意欲も高めることができた。
- ・税の学習から、選挙を通しての政治参加を考えさせることで、社会科の学習とつなげることができた。学習指導要領や年間指導計画には含まれていない今回の税の学習も、合科的に進めることができたのは良かった。

### 【課題】

- ・今年度は単発で授業を行ったため、今後も行っていくのであれば、年間指導計画に位置づけ、計画的に授業を行う必要がある。
- ・行事がたくさんある2学期の多忙な時期に、研究発表に向けて授業を進めることはとても困難だった。